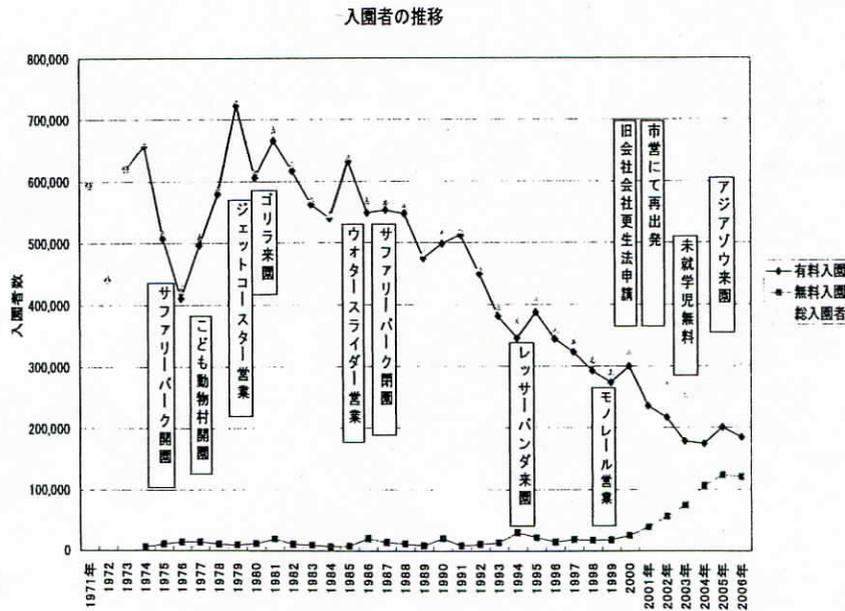
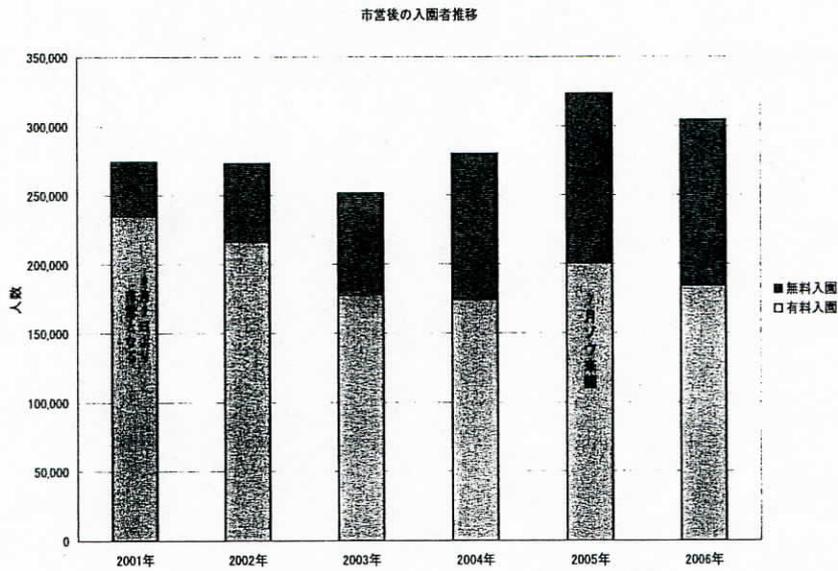
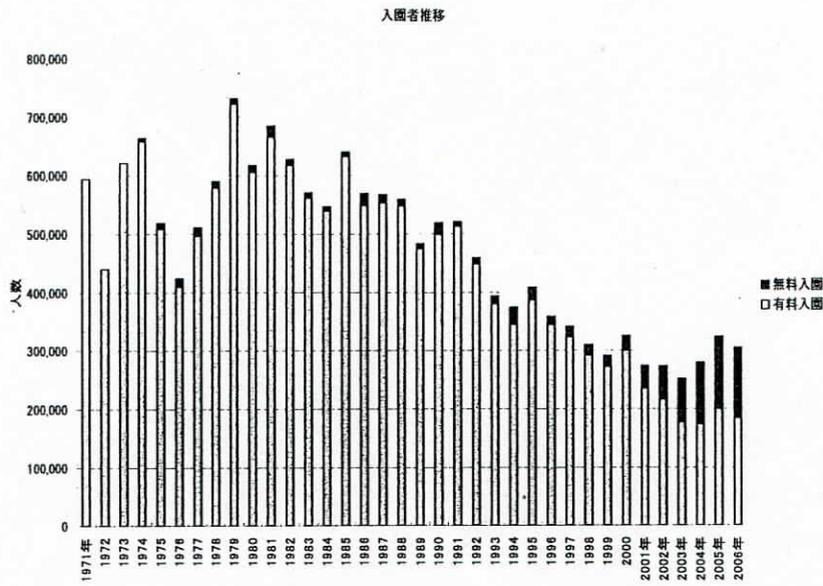


飼育動物の種類（品種）と員数の推移は次のグラフのとおりです。

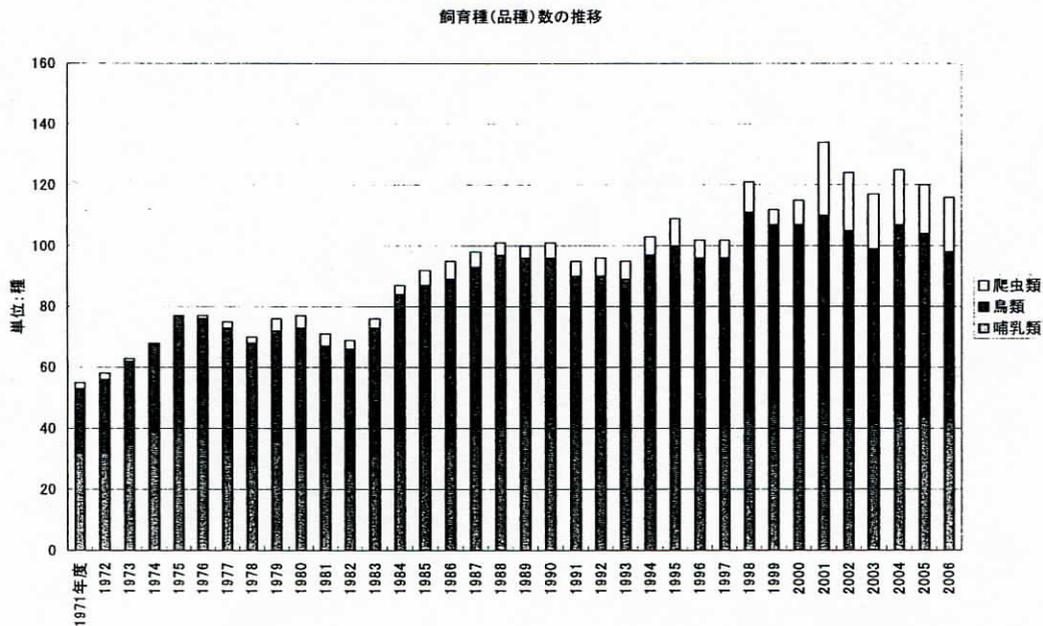


(単位：円)

	こども	中間年齢	大人	団体割引
71年	100 (4才～12才)		200	50名以上2割引
72年				30名以上2割引
73年	100 (4才～小学生)	200 (中・高校生)	300	25名以上2割引
75年			400	
80年	200 (4才～中学生)	300 (高校生)	500	
82年	200 (4才～小学生)	300 (中・高校生)		
83年	200 (3才～小学生)			
84年				15名以上1割引・25名以上2割引
88年			600	
89年	300 (3才～小学生)	400 (中・高校生)		
92年			700	
94年				15名以上2割引
97年	300 (4才～小学生)	400 (中学生)	800	
01年				市内小・中学校の遠足等利用無料
03年	年間パスポート発行 (小・中学生1,000円・大人2,000円その他フローランテ共通・ファミリー等有)			
03年	300 (小学生：未就学児無料)			

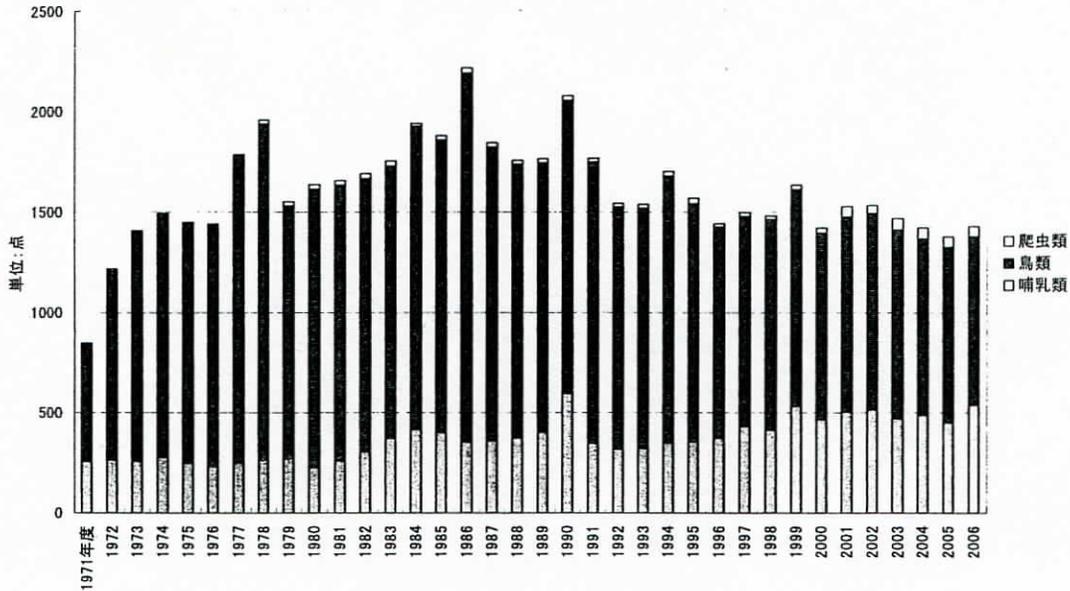
(6) 動物園入園料の推移  
入園料の推移は次の表のとおりです。

妊婦の入園無料、各種減免制度他。



(7) 飼育動物の種(品種)と員数の推移は次のグラフのとおりです。

飼育個体数の推移



#### 四、教育・レクリエーション

動物園では、先に述べましたとおり、社会的役割を果たすため、動物を健康的に展示し、繁殖させることを中心に業務を展開してまいるのは当然のことです。そして、展示動物を利用し、多くのことを来園者に伝え、また、多くの来園者を招く工夫も当然の業務です。そのために、多数の試みを過去、現在とも行ってまいりました。少し紹介いたします。毎日、およそ三十分の間隔で次のプログラムを行っています。お食事タイム（ワオキツネザル、ペリカン、ペンギン）、ゾウさんガイド、ゾウの散歩と記念写真、フラミンゴショー、ヤギの行進、類人猿の知能実験等々。このほかにも、日曜日や祝祭日には、さらに増えて、飼育係といっしょに（飼育員と来園者が動物を囲みお話をする）・キリンに木の葉を・動物たちの運動会・動物の誕生日会・愛称募集・クイズ会・ナイトズーウォッチャー他、教育活動をも含めて行ってまいります。

##### (1) 動物園サマースクール

夏休みに、小学生を対象に、一日に百二十名、十日間で合計千二百名の児童を集めて、動物の餌の世話や掃除などの飼育実習やふれあい、学習会、水泳といった体験学習を通し、「動物を好きになっただけだこう。興味を持っていただこう。」また、「友達つくりの場」を目的に行っています。一九七二年が第一回開校でしたので、本年度で三十六回を数えました。この教室を親子共に体験した方も大勢います。

##### (2) 移動動物園教室

梅雨の時期を利用して、動物園の動物を約二十種四十点（ポニー、ラマ、フラミンゴ、レインボーボア他）を連れて、動物園より遠隔の小学校を訪問し、動物園教室を開催するものです。もちろん、地

域の方々との交流を広めるプログラムを用意します。また、この教室の特徴のひとつが、学校やPTAの皆さんの協力なくしては成り立たないということです。二〇〇五年からは当園のボランティアも参加していただき、より一層の充実が図れたと思っています。

一九七五年、第一回目として椎葉村仲塔小学校財木分校を訪れて以来、本年（二〇〇七年）で三十二回実施しました。その間に訪問した学校は以下のとおりです。西米良村板谷小・尾股小、北郷町黒荷田小・北郷小、延岡市島野浦小・安井小、えびの市加久島小尾八重野分校、五ヶ瀬町鞍岡小本屋敷分校、串間市大納小・大平小、諸塚村七ツ山小、西米良村小川小中学校・西都市白銀小、須木村内山小、日之影町小原小、えびの市飯野小高野分校、椎葉村尾向小、延岡市須美江小、日南市大窪小、都城市吉之元小、南郷村水清谷小、えびの市西内方堅小、木城町石河内小、都城市御池小、北浦町三川内小、えびの市上江小霧島分校、椎葉村不土野小、五ヶ瀬町桑野内小、串間市金谷小、西郷村山瀬小、日之影町日之影小、日南市吾田小一年生、日向市財光寺南小高学年、北郷村黒木小、椎葉村小崎小（大河内小）、延岡市島野浦小

### (3)各種コンクール

動物園では、これまで、八種のコンクールを行い、現在では、年間三種のコンクールを行っています。内容については以下のとおりです。コンクール名（対象、共催、期間、開始年～終了年）、児童・幼児動物画コンクール（保育所、園・幼稚園児・小学生、宮崎日日新聞社、夏休み、昭四十六年～継続）。トーテンポール創作コンテスト（県内小中学生、読売新聞社、夏、昭四十七年～昭和五十一年）。動物の作文コンクール（小中学生、朝日新聞社、夏～秋、昭四十八年～継続）。年賀状版画コンクール（小中学生、NHK宮崎放送局、年末、昭和五十年～継続）。ペット写真コンクール（一般、宮崎県・県獣医師会、夏～秋、昭和五十八年～平成九年）。動物園

俳句ポスト（来園者、年中、共催なし、昭和五十九年～平成十四年）。動物の研究・観察レポートコンクール（小学生、西日本新聞社、夏、昭和六十三年～平成二年）。動物愛護イラストコンクール（小中学生、宮崎県・県獣医師会、夏～秋、平成四年～平成九年）



ゾウの散歩



動物園サマースクール



移動動物園教室

## 五、研究・自然保護

研究については、飼育業務すべてがその一部と意識して、注意を払ってきました。その中でも、繁殖の研究は、とりわけ動物園ならではの研究成果が得られる場だと考えております。これまでも、先に述べましたとおり、ダチョウ、チンパンジー、フラミンゴ、等々の繁殖成果も得られております。一方、大学等の研究機関も、動物園には注目し、自然保護とも相俟って、共同研究が盛んになっております。特に、アジアゾウについては、生理（ホルモン）、病理、繁殖、栄養等々協力して行っております。

自然保護については、国内の動物園が全国的に協力して展開してまいりました種の保存は、動物園界に認知普及して協力体制が確立されています。当園も、オランウータン、レッサーパンダ他、多くの種で協力しています。ここで思い出されるのが、一九九三年のこ